

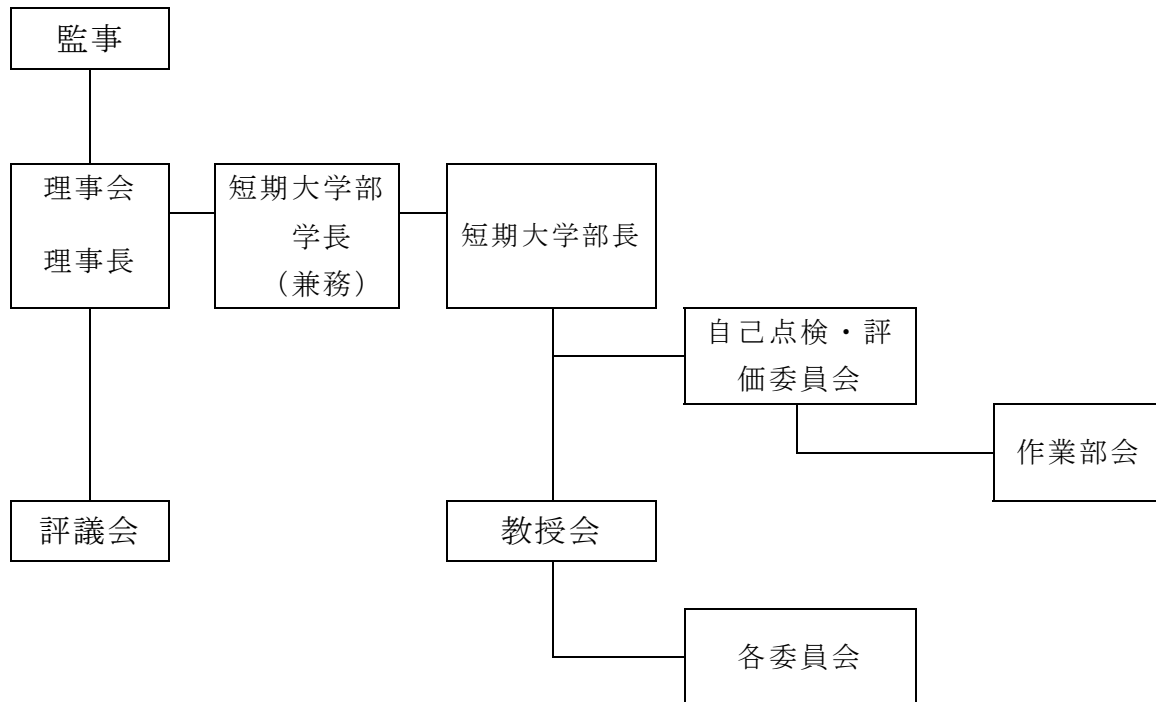
2. 自己点検・評価の組織と活動

- 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）
- 自己点検・評価の組織図（規程は提出資料）
- 組織が機能していることの記述（根拠を基に）
- 自己点検・評価報告書完成までの活動記録(自己点検・評価を行った平成 27 年度を中心に)

自己点検・評価委員会

職名	氏名	職階	備考
委員長	石田勝義	教授	学長
委員	金子容子	教授	部長
委員	山本孝一	教授	学科長
委員	弘谷多喜夫	教授	ALO
委員	若杉雅夫	教授	就職部長
委員	芳賀亜希子	教授	教務部長

自己点検・評価の組織図



自己点検・評価報告書作業部会

作業部会責任者	金子容子	教授	部長
委員	山本孝一	教授	学科長
委員	弘谷多喜夫	教授	ALO
委員	若杉雅夫	教授	就職部長
委員	芳賀亜希子	教授	教務部長
委員	神谷 司	主査	学生支援・教務グループ担当職員
委員	大坪 仁幸	主査	学生支援グループ職員

作業部会は、平成28年度においては、校務分掌組織である教育方法部会のメンバーと一致させて選出した。こうすることで、部会終了後に直ちに、作業部会の会合を開催できることで、効率よく作業を進めることができた。作業部会では、完成までのスケジュールを決め、理事長、学長、法人本部、短大部事務、教務部会、入試企画部会、学生部会、実習部会、図書委員会に資料の提出と原稿の1部を依頼し、部会での分担による執筆を行い、討議を経て、原案を作成した。原案は教員全員に読んでもらい、そこで出された修正意見を反映させて完成稿として、自己点検・評価委員会に提出、教授会で報告され同意を得たものである。

なお、作成の発議は、自己点検・評価委員会より、教授会で行われたものである。

平成29年度から、自己点検・評価委員会は、新部長のとなった金子容子教授が実質的な責任者として統括することになった。又、新たに教務部長（芳賀亜希子教授）が委員となってこれまでの委員会でのPDCAについての議論をより深め、報告書に反映させることにした。

作業部会については、28年度からの体制を維持することとしたが（報告書の原型は、ほぼ作られていたので）、作業のスピードを上げ、数値などの点検にも当たれるように、更に1名の事務職員を加えた。部会は、委員が重なるため委員会の議事に引き続き具体的な作業をおこなった。

活動記録

自己点検・評価委員会

- 平成28年10月17日（月） 教授会で第三者評価の受審と報告書作成について発議
- 平成28年11月24日（木） 28年度報告書の反省点と28年度の自己点検・評価の取り組みについて
- 平成28年12月19日（金） 同上
- 平成29年1月20日（金） 28年度自己点検・評価について各部に依頼する
- 平成29年3月9日（木） 新年度へ引継ぎ新たに役割分担を決める
- 平成29年4月20日（木） 第1回 報告書の内容について
- 平成29年5月15日（月） 第2回 同上
- 平成29年5月29日（月） 第3回 報告書作成状況について
- 平成29年6月2日（金） 第4回 同上

作業部会

- 平成29年3月9日（木） 作業日程について打ち合わせ
- 平成29年3月31日（金） 新年度へ引継ぎ
- 平成29年4月21日（金） 第1回 報告書原案の検討を行う
- 平成29年5月15日（月） 第2回 （以降委員会と同時開催）
原案の修正、書き換えを行う
- 平成29年5月29日（月） 第3回 同上
- 平成29年6月2日（金） 第4回 同上